

## 海外まき網漁業における効率的な操業パターンの開発

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010186">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010186</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



## 海外まき網漁業における効率的な操業パターンの開発

開発調査センター 浮魚類開発調査グループ

### 研究の背景・目的

- 我が国海外まき網漁業の主漁場である熱帯太平洋中・西部海域では、外国まき網船の増隻と大型化が進み漁場はほぼ満限状態となって激しい競争が生じています。しかし、インド洋東部公海域では外国まき網船による操業はほとんど行われていません。そのため、関係業界は、国際競争力強化のため太平洋海域とインド洋海域との組み合わせ、特に将来にわたる安定した漁場の確保のために熱帯インド洋漁場における効率的な操業パターンの確立を望んでいます。
- また、我が国の鰹節・カツオ削り節の加工原料(20万トン/年)は、主として海外まき網船が漁獲する南方カツオが用いられていますが、年間5～8万トンを輸入カツオに依存しており、加工業界からは安定的な原料確保、特に脂肪含量の少ないインド洋カツオの国内搬入が望まれています。

### 研究成果

- インド洋東部公海域において調査を実施し、南西モンスーン期の海況悪化を避けた同公海域北緯水

域の操業では、人工流木に対する魚群の蝟集状況がよく、漁獲が比較的良好でした。

- 2隻体制による操業調査を実施し、両船の情報交換と相互協力によって漁獲状況が良好であり、複数船による操業体制は効率的であることを示しました。
- 新たにコスト削減の観点から、投網時に先導的小型艇を必要としないブイライン方式による操業システムを導入し、投網時の習熟を達成しました。

### 波及効果

- 熱帯インド洋海域における良好な調査結果を業界に示した結果、インド洋から撤退していた我が国の海外まき網漁船が6年ぶりにインド洋に再進出しました。当該漁船は本調査で得られた情報を活用して好成績を挙げました。
- カツオ節原料として優れたインド洋カツオを枕崎及び山川港に搬入することにより安定的供給に貢献し、カツオ節加工業者からも高く評価されました。



図1：10月から新しく調査に投入した日本丸

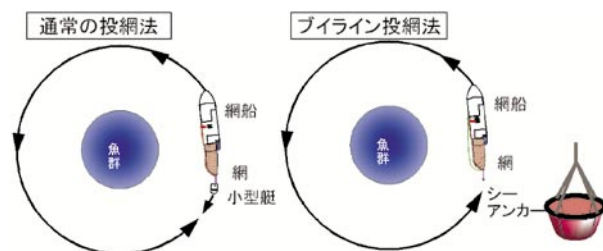


図2：通常の投網とブイライン投網法の比較